道　標　－みちしるべ－

40期

Ⅰ　テーマ設定の理由

修学旅行時のテーマ活動の大きなタイトルとして「道」があった。私はテーマ活動を終えて、その「道」というものの偉大さを少しつかめたように思う。古くからある道として「街道」が思い浮かんだ。長い年月の間、たくさんの人々がいろいろな目的・思いをだいて街道の土をふんだことだろう。人々が行く先までのたよりとしたもの。それは言うまでもなく道標（みちしるべ）であろう。考えてみると道標とは、先人の残した知恵の結晶ではなかろうか？　このような理由から私は、今残っている当時の道標をたよりに街道であった道を歩いてみたいと思い、このテーマに決めた。

Ⅱ　研究方法

［1］文献等から大阪にあった街道について調べる。
　・歴史および目的について
［2］街道があったと思われる地域に自転車で行き、道標を探す。
　・地図を用い、道標があった場所に印を入れる。
　・道標にどのような事が書かれているか等をスケッチする。
［3］道標の分類
［4］見つけた道標をもとに自分で街道地図を作ってみる。
　※自分の足で行くことのできる範囲ということで大阪市内に限った。
　また、用いた地図は
　　国土地理院　1：25,000　大阪市（東北部・東南部・西北部・西南部）
　　大阪市ビジネスマップ　1：8,000　昭文社　　である。

Ⅲ　研究内容（1）

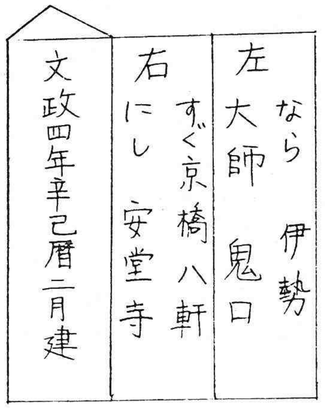
1．暗越奈良街道

外略：大阪・奈良・伊勢をつなぐ街道として江戸時代以降なかなかの利用者で賑っていたそうだ。しかし大阪より生駒山系の暗峠を越していくので楽な道ではなかったはず。それにもかかわらず多くの人々の通行を見たのはやはり大阪－奈良間に至る最短距離という事が大きかったにちがいない。

［道標①］東区上町――市内ではこの街道のことを伊勢街道とも呼んだらしい。もとは内安堂寺町が起点でこの道標もそこにあったがこの地へ移転された。大通りに面さず、住居の多い、内側の道にあった。

［道標②］東成区玉造町――ここは二軒茶屋跡と呼ばれ道両側に明治中頃まで二軒の茶屋（つる屋・ます屋）があり、市内から街道へ旅立つ人の多くはここで見送りと別れを惜しんだ。

［道標①］



▲［道標②］

▼［道標⑤］

［道標③］東成区東小橋一丁目———これは矢田地蔵という地蔵尊に道案内が記され、全くの地蔵堂に道標が祭られているといった変わったものだった。

［道標④］東成区中道本通三丁目———明治九年建てられた高麗橋の道路元標より一厘の地里にあると道標に記されている。

▼［道標④］

［道標⑤］東成区大今里四丁目———立派な常夜灯型。国道（308）が改修されるまで北八尾街道との岐路にあったものが移転されたらしい。行先の表示は正しくなくなっている。

2．梅田（大和田）街道

外略：この名は明治の命名であるがもとは大阪道とはいえ途中の道筋は違っていた。名の由来は梅田と大和田を経由しているため。短い道のため集落の行き来に用いられたと考えられる。

［道標⑥］福島区鷺洲二丁目聖天了徳院内———どちらが主かと戸惑うくらい立派な灯篭に記されている。あまがさきと読むことができる。

［道標⑦］⑥に同じ———地蔵尊が道標をなしているもの。右ハ了徳院と読めるため、もとは違う場所にあったものと思われる。

▼［道標⑥］

［道標⑧］福島区大阪市立鷺洲小学校内———少しかけていた。

［道標⑨］福島区海老江南桂寺内———戸が開いていず、見ることができなかった。

［道標⑩］福島区鷺洲料亭富竹内———これは大阪大空襲で痛み再建さたもの。「東とも西ともわからぬ旅人はみな見に来れ此のいしぶみ」と中央に記されているのがユニーク。

［道標⑪］福島区鷺洲八丁目八坂神社内———ひへじま・あま道・大阪道とだけ記され年号はわからず。

［道標⑫］⑪と同じ———左：野田電車乗場という文字が目をひいた。この道標はそれだけに新しいものであって大正三年に大阪府により建てられたと思われる。

3．熊野街道

外略：修験道として、また往時天皇上皇や高位高官達が参詣したことに始まり庶民に広まり「蟻の熊野詣」と称されたほど多くの人が通ったという。小栗街道とも呼ばれる。

－熊野詣－

紀伊の熊野三山に参詣することで平安時代に始まる。（白河上皇の寛治四年<1090>第一回熊野御幸に始まる）鎌倉時代にこの風習は武者や庶民にも普及し全国各地から続々と参詣。室町中期以降は伊勢参宮におされしだいに衰えた。行く道に熊野（九十九）王子と呼ばれる多くの結社があり道を行く人がいちいち奉幣、歌合を開くことは古くからのならわしであった。

［道標⑬］天王寺区生国魂神社北門真向坂 ——— 写真を見てもらえばわかるようにこの道標はマンションの一部として組みこまれ保存されている。めずらしいものだ。右京道と読むことができる。これは京街道のことであろう。京都から熊野詣をするためには、船で淀川を下り大阪天満八軒家で降りてここから歩くか陸路の京街道で枚方・守口・京橋を経て天満に至り八軒家から街道に入るというものが考えられる。そのため京街道を示す道標が必要だったのだろう。街道どうしのつながりを示してくれる大切な道標だ。

［道標⑭］天王寺区大江小学校内 ——— 年代はわからぬが庭木にかくれて立っている。

［道標⑮］天王寺区清水寺内

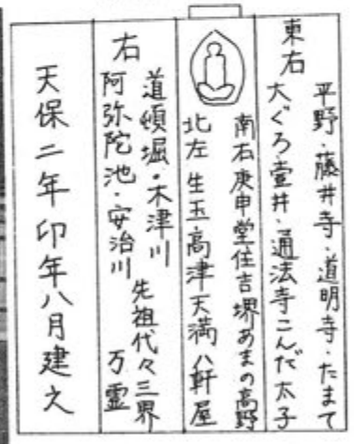
［道標⑯］⑮に同じ ——— ⑮⑯ともに他の場所から移転されたようである。

［道標⑰］天王寺区四天王寺境内 ——— これも真中に地蔵尊が見られる。ここには熊野権現礼拝石が残されている。

▼［道標⑬］

▼［道標⑲］

▼［道標⑰］



［道標⑱］阿倍野区北畠公園内 ——— これは小さいものであるが、阿倍王子神社が近いためと思われる。王子神社前には大阪市の設置した街道を示す石柱がある。この神社は数多い王子社の内でも旧位置にそのまま現存している数少ない一つである。

［道標⑲］南区東平町 ——— ここでも「すぐ八軒家」の文字が見られる。なぜか「南無阿弥陀佛」という文字も彫られている。年号は書かれていない。

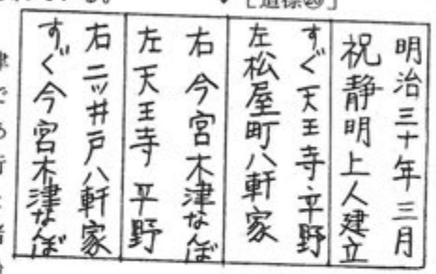
4．竜田越奈良街道

外略：大阪天王寺より平野・八尾・柏原・国分・法隆寺・郡山を経て奈良に通ずる街道。
市内では、平野の大念仏寺の辺りくらいしか古道らしいあとはなく国道２５号線によって奈良街道と総称されている。

［道標⑳］天王寺区天王寺公園北側 ――― 明治三十年と新しいものである。

［道標㉑］⑳に同じ ――― 指で示す手の形が彫られている。

▼［道標⑳］



5．桑津街道（田辺街道）

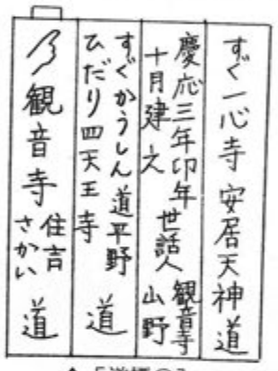
外略：天王寺区真田山辺りを起点として桃谷から桑津へ向かい田辺街道となって駒川に沿い、田辺で下高野街道につながる。大分に大回りな道であるがこれは、自然発生的にできた村どうしの行き来に使われたものがそのまま街道になったと考えられる。昔、猪甘津といわれたように、猪飼野の辺りが入り江になっていたためそれに沿ったのだろう。

［道標㉒］生野区桃谷二丁目 ――― これは、倒れていた道標を「生野古道の会」という人達の手で建て直されたものらしい。

6．鶴橋街道

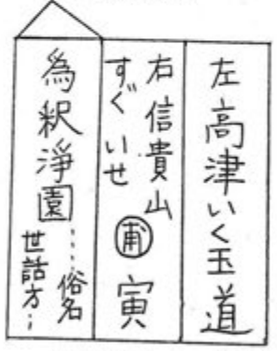
外略：南部では桑津街道の東側を平行に通っている。この北部の起点は古堤街道の城東区新喜多町あるいは平野川に沿う中浜町の辺りと思われている。

［道標㉓］生野区桃谷三丁目

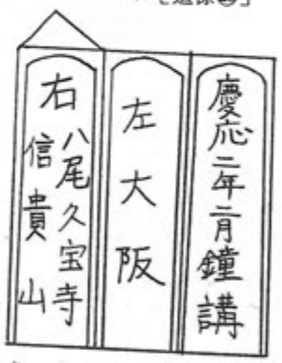


▲［道標㉑］

▼［道標㉒］



▼［道標㉓］



(2) 分類　ａ．年表より

調べた道標（六街道二十三基）に書かれている年号をもとに年表を作った。しかし、石が風化して字が読めなかったり彫られていなかったりでわからないものが九基、他の十四基は年号をもとに西暦に直し、古い順にならべた。

年　号	西暦	道標番号	街道名
宝永八	1711	②	暗越奈良
宝暦八	1758	⑦	梅　田
文化三	1806	⑤	暗越奈良
天保二	1831	⑰	熊　野
〃　三	1832	⑩	梅　田
〃十五	1844	㉓	熊　野
嘉永二	1849	⑥	梅　田
安政四	1857	⑭	熊　野
慶応一	1865	⑧	梅　田
〃　二	1866	㉓	鶴　橋
〃　三	1867	㉑	竜田越奈良
明治三十	1897	⑳	竜田越奈良
〃三十五	1902	④	暗越奈良
大正三	1914	⑫	梅　田

▲道標年表

考察：この表より街道の古さが証明できるかと期待していたのだが、まちまちでこれといった傾向は見られなかった。暗越奈良街道を例にすると②と④では１９１年もの開きがある。道標の多くは寄進者により建てられているため、古くなったり、必要に応じて建てられたものであろう。

ｂ．形

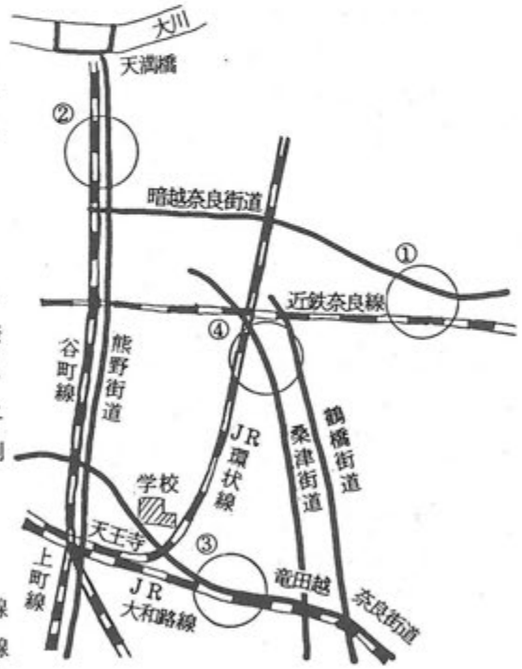
１．	角　柱	一般的で数字も多い
２．	板碑（供養碑）	
３．	自然石	
４．	常夜灯（灯篭）	夜道を行く人のための工夫
５．	地蔵形	旅の無事を祈ったのだろう
６．	墓　碑	

※多くは寄進者により建てられたことが形にも関係している。寄進者の種類として
・先祖供養
・信仰の講中
・地区有志
等があげられる。

ｃ．石　　花崗岩（御影石、生駒石）・閃緑岩・水成片岩など

(3) 街道地図の作成

道標があった場所と文献をもとに街道がこうあっただろうと街道地図を作成した。線をひっぱるうちに一つの規則があることに気がついた。１つずつ見ていこう。



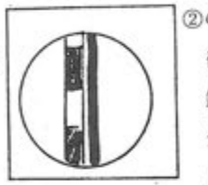
①

①の場合

街道－暗越奈良

鉄道－近鉄奈良線　どちらも似たルート（大阪→東大阪→奈良）で奈良へ至る。離れているが、昔大阪の中心といえば城であり大阪城に近い方が良かったが今は難波に近い方が便利が良い。

②



②の場合

街道－熊野街道

鉄道－地下鉄谷町線，上町線

全く同じ道。阿倍野で谷町線は横へずれるがその後すぐに上町線が走る。

③

③の場合

街道－竜田越奈良街道

鉄道－ＪＲ大和路線

全く同じルート（大阪→八尾→奈良）である。

④

④の場合

街道－右：鶴橋街道　　鉄道－ＪＲ環状線

左：桑津街道　　鶴橋→桃谷間

２つの街道は短く集落の行き来によりできたものと思われる。一見、鉄道は通っていないかのようだが、この２つの街道はどちらも鶴橋→桃谷間を通っているためＪＲ環状線の一部によって満たされていると考えてよいだろう。

結論として街道の上を鉄道が走っている、という事がいえる。街道は昔、第一の交通網であった。今、鉄道は第一の交通網である。鉄道とは土地柄、用途等から考えても昔の街道等を調査し、その上に設けられたのではないだろうか。それゆえに街道とは完成された道であったことがよくわかる。

Ⅳ 結　論

・六街道二十三基の道標を調査できた。→市内は早くから発展、道の改修等により保存法も悪い。

・鉄道と街道に深いつながり→街道は完成された道であった。

道標は多くの問題点をかかえている事がわかった。私は結論としてあえてここで私達がこれから考えねばならない事を記す。

・保存について。

1. のざらしのものと説明つきのものという様に差が激しい。
2. 石は風化が進んでいる。
3. 道の改名や工事により消えていくため、文献等で残す必要がある。
4. 寺や小学校内に保存するのは良いが市民にはなかなかわからない。
5. ［道標⑬］の様に今ふうのアイディアで歴史のある町づくりを進めてはどうか。

Ⅴ 総括（感想・反省）

夏の暑い日ざしの中、道標をさがし回るということは本当にしんどかった。しかし研究を進めるにつれ、思わぬ発見も数多くあり楽しく研究することができた。私の調べた道標は二十三基であるが、一人で調べたため見すごしもあることだと思う。教科書に載っている五街道の他にもたくさんの街道がある。教科書に載っている歴史も大切だが、こんな身近な歴史がだんだんと消えていく中で今回の研究は意義深いものとなったような気がする。